NOSAI

稲作だより

令和６年
４月９日発行
第３号

育苗管理編

気温が高くなる予報、適切な温度管理を!

■ 桜の開花は、3月に寒の戻りや降雪もあって、最も早かった昨年よりも12日遅い3月29日でした。
気象庁4月4日発表の1ヶ月予報では、平年より気温が高い確率が70％と高い予想なので、浸種・育苗時はきめ細かい温度管理を行い、ばか苗病等の感染や高温障害（苗焼け）に注意してください。

播種作業上の注意点

■ 催芽で芽と根が1㎜出た鳩胸状態を必ず確認し、伸ばしすぎに注意してください。

■ 播種量（乾籾換算）の目安は、中苗が80～100g/箱、稚苗が130～150g/箱です。播種量が多いと軟弱徒長苗の原因になるので注意しましょう。

■ 覆土の厚さは、床土使用では5～7㎜程度、育苗マット使用では10㎜程度としてください。

育苗時の温度管理の目安

出芽期

昼夜30～32℃に保ち育苗器で2日程度、トンネルで5日程度

覆土から5～10㎜出る状態まで出芽させます。
無加温では、出芽が揃うように被覆保温資材を適切に使用しましょう。
ハウスやトンネル内とマルチ下に温度計を設置し、腰高、苗焼けにならないよう換気を行いましょう。

緑化期

昼間25℃、夜間15℃で3日間　異常低温、高温に注意

出芽時の苗は黄白色のため、直射日光を当てると白化現象を起こすので日中は寒冷紗等で遮光し弱光で緑化する。朝夕や曇りの日は遮光資材をはがして緑化を進めましょう。
異常低温や高温でも白化するので温度管理に注意しましょう。

硬化期

昼間20～25℃、夜間10～15℃ 晴天時は早めの換気を

この時期になると外気温も高くなるので、日中の温度管理に注意し天気の良い日には徒長しないよう換気に努めましょう。
快晴の日の夜は、放射冷却現象により低温になりやすいので保温に努めましょう。
田植一週間前から育苗ハウスを開放し、徐々に外気にならしましょう。

水稲共済に加入しましょう！

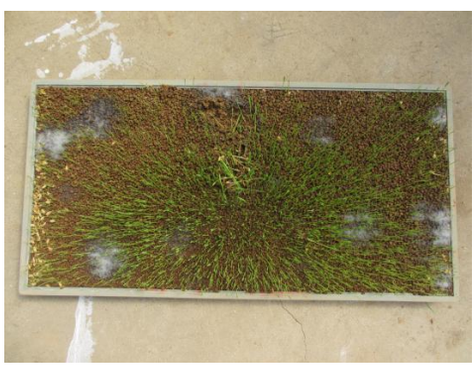
もうすぐ田植が始まります。
台風や長雨、いもち病などの
災害に対する備えは万全ですか？
水稲共済に加入して多発する災害に備えましょう。

育苗期間中の水管理と主な病害

出芽を揃え、温度管理やかん水を適切に行い、農薬を適正に使用して病害を発生させないように管理しましょう。育苗中の主な病害は表1のとおりです。

表１　育苗期間中の主な病害と対策

病名・病原菌		症状	原因	対策
苗立枯病	リゾプス属菌	土の表面にクモの巣状の白いカビ	出芽時の高温多湿、厚播き	33℃以上の高温にしない、多湿にしない
	フザリウム属菌	地際部や籾周辺に白色～ピンク色のカビ	低温、PH5.5以上の床土、乾燥、過湿	低温を避け、土壌の湿度を適切に維持する
	ピシウム属菌	カビは見えない。出芽後の芽、根の枯死、ムレ苗	緑化期の低温、湿度の変動が大きい時	低温を避け、適切な温度を保つ 過湿にしない
苗立枯細菌病 もみ枯細菌病		第２葉身の真ん中から基部にかけて黄変または白化、伸長停止しその後枯死する	出芽時の高温多湿	高温・過湿を避け、発病した苗は廃棄する



苗立枯病(リゾプス属菌)

苗立枯病(フザリウム属菌)

苗立枯病(ピシウム属菌)

苗立枯細菌病

もみ枯細菌病

※　苗立枯病･もみ枯細菌病の写真は、県病害虫防除所提供

水管理

かん水は、朝に1回が基本です。夕方のかん水は、床土の温度を下げるので避けましょう。

プール育苗は、1.5葉期に床土の高さまで入水し(カビ等の好気性病害の発生を抑制)、ハウスを開放。2葉期以降は箱上1cmが目安です。

NOSAI山梨　山梨県農業共済組合　https://www.nosai-yamanashi.or.jp

■中央支所　TEL:0553-22-5056
■北部支所　TEL:0551-23-1111
■南アルプス支所　TEL:055-282-0443
■富士支所　TEL:0554-45-6611
■本所　TEL:055-228-4711